（仮称）廿日市市まちづくり基本条例検討市民委員会 第２回会議　会議要旨

（開催要領）

１　日時：平成 22 年 7 月 31 日(土) 13:00～16:10

２　場所：廿日市市吉和福祉センター すこやかホール

３　出席委員：20 人

今田圭宗、岩藤綾子、奥野弘和、熊谷 操、杉中利正、千原保仁、中村眞琴、
吉武英彦、亀谷敏男、宮本育生、竹中久人、大野宣江、小熊鶴雄、中丸建二、
藤本益之、井上 軍、山根義広、羽熊俊哉、槙本知則、板本麻美（欠席委員 10 人）

出席スタッフ：25 人

アドバイザー：蛯江紀雄

ファシリテーター、支援スタッフ：宮迫勇次、上元新一郎、船﨑美智子、
浅野ジュン、浅野涼子、五百田定

職員ワーキングチーム：山本裕行、中村 満、藤井健二、澤岡由起子、木下英治、
和田 浩、倉田 忍、上田光司、栗栖靖宏、鈴本 昇、山福美佳、佐川智弘、
川下晃一

その他職員：上杉直實（吉和支所長）

事務局：井原泰彦（自治振興部長）、
（以下、まちづくり推進担当）池本光夫、中川美穂、川本 誠

傍聴者：５人

（議事次第）

１　開会

２　あいさつ

３　事務局説明

４　ワークショップ

「廿日市市のまちづくり ～協働によるまちづくりでめざす姿」を考える

(1)　ルール説明

(2)　グループ別検討

(3)　グループ別発表

(4)　まとめ

５　講評

６　閉会

１　開　会

〔事務局〕

本日は、お忙しい中、（仮称）廿日市市まちづくり基本条例検討市民委員会への参加に感謝する。第２回会議を開会する。

本日の市民委員会の進行は、次第に従って進める。前回に引き続き、この会議は公開で開催し、記録のため、ビデオや写真の撮影をしているので、了承いただきたい。

２　あいさつ

〔事務局〕

開会にあたり、廿日市市吉和支所長より、ごあいさつをする。

〔吉和支所長〕

本日は、大変お暑い中、ようこそ吉和へ。
吉和は、標高600m以上の西中国山地に囲まれた緑と清流の里であり、午前中視察いただてたように、700から800戸あまりの別荘が建っている。吉和全体が407世帯、約2倍の別荘が建っており、自然に囲まれながら四季折々の趣の中で楽しんでもらっている。
今日の吉和におけるワークショップを皮切りに、9月には宮島で、11月には佐伯でワークショップを行いながら、まちづくり基本条例を検討されると聞いている。合併によって海水浴のできる沿岸部から、スキーのできる山間地域まで、特性や課題もさまざまであり、ぜひこうした機会を利用して、各地域の現状を知っていただけると幸いである。
まちづくり基本条例は、協働によるまちづくりのめざす姿やルール、仕組みなどを定めるものだが、人と人とのつながり、地域と地域とのつながりや助け合いが、新しい廿日市市をつくっていくためのエネルギーとなることを、私たち、吉和地域の職員や住民も、望んでおり、また、廿日市市全員の住民も願っている。
今日の会議は、ワークショップ形式で行われるが、忌憚のないご意見をたくさんいただきたいので、よろしくお願いする。
簡単ではあるが、歓迎のごあいさつとする。

3　事務局説明

〔事務局〕
本日の会議から、いよいよ内容の検討に入る。その前に、これまでの振り返りと本日の会議のねらいをお伝えする。
基礎学習と位置づけていた、前回の会議とキックオフシンポジウムの内容について「（仮称）廿日市市まちづくり基本条例かわら版」に沿って、振り返ってみたい。6月19日の第1回会議は、条例策定に向けての基礎学習と、委員の皆さまの顔合わせとを目的とした会で、市長から「はつかいちならではの魂のこもった条例素案を検討いただきたい」旨のお願いや、「廿日市市のまちづくり」「条例策定に向けて」の説明、自己紹介などをした。この時に書いていただいた「自己紹介と一言シート」は、これからのグループ討議などさまざまな場面でご利用いただきたい。また、7月6日のキックオフシンポジウムは「協働のまちづくり」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを開催した。こうした会議などの詳細はホームページなどで公開する。また、市広報8月1日号にも記事として掲載するので、ご覧いただきたい。
今回の会議は「協働によるまちづくりでめざす姿」をテーマに、廿日市市のまちづくりについて、広くいろいろな思いを出し話し合うことが、まず1つ目のねらいである。そして、これらの思いや意見についてグルーピングをし「理念・めざす姿」に関する意見についてのキーワードを見つけることが、2つ目のねらいである。これらのキーワードは、条例の内容のうち「前文」「目的」「まちのあるべき姿」などに反映するものとなる。
今後、第2回から第7回までの会議では「理念・めざす姿」「主体・役割分担」「仕組み」3つのテーマに焦点をあてながら、検討を進めていくことを予定しており、年明けには、市内5地域で市民ミーティングを開催し、まとめとしての条例素案の作成は3月中としている。
本日のワークショップへは、職員が加わり、進行役や記録などを行うが、中国・地域づくり交流会のファシリテーターの皆さんに応援をお願いしている。
ワークショップの進行は、総合ファシリテーターにお願いする。

4　ワークショップ「廿日市市のまちづくり ～協働によるまちづくりでめざす姿」を考える

(1)　ルール説明

〔総合ファシリテーター〕

廿日市市では、協働のまちづくりに対して真に取り組まれていて、こうした会議も準備や進行も職員がやっている。それなら職員だけでやればいいのかというとそれは違うと思う。こうしたやり方を見て、市民の方も世話をする立場では、それぞれ地域や活動の場に帰って、ワークショップや意見交換会をすれば、もっと広がると思う。

今日を始めとし 3 回のワークショップが予定されているが、こうした会は「何のために話し合うのか」「何をつくっていくのか」がはっきりわかっていないと、うまく進行ができない。

今日のワークショップでは、たくさんの素材を出すことがポイントである。できるだけたくさんの方の意見をもらうために、「長い話はしない」「みんなが意見を言いやすい場づくり」など、皆さんで協力し合って進めてほしい。作業時間についても、要所要所でチェックを入れるが、テーブルの進行担当も時間運営するので、協力をお願いする。

私は広島市に住んでいるが、吉和へは、15 年くらい前から 5 年間ぐらいは、毎年夏に、テニスや子どものキャンプなどで何度も来ていた。最近の廿日市は宮島に目が向くことが多かったが、久しぶりに来てみて、本当にすてきなところ、非常にコンパクトで住みやすそうなところだと思った。

廿日市市は、島から海から山まで多様な地域の個性がある。まちづくり基本条例というガイドブックを作るのだが、一つのルールブックで見るのではなく、「吉和は吉和の」といったローカルルールを決めようというアイデアもあるかもしれない。良いところは共通の土台とし、それぞれの地域でルールを決めて、協働していこうというのもある。地域経営という言葉も出ているが、これから 10 年先 20 年先、高齢化、不景気の続く中で、競争しながら生き残っていくことが大切である。廿日市市全体の分担が、いかに中国地方、全国、中国やアジアに、位置づけられていくかという、競争に対してわれわれが協働してどうまちをつくっていくかという作戦会議とも言える。この会議には、重要なキーマンが集まっており、この 10 回だけではなく、まだ続いていくのだと思う。そのための第 1 回目として、吉和を見て、皆さんの参加の熱心さを見ると、いいスタートが切れるのではないかと思う。

私たちファシリテーターも後ろから応援する。休憩をはさんで 2 時間弱テーブルでの話し合いをお願いする。

(2) グループ別検討

〔グループごとに話し合い〕

(3) グループ別発表

〔環境グループ（A委員）〕

これからのはつかいちをどんなまちにしたいと思うかのキーワードは「安心・安全」「健康」に配慮したい、「自然環境」「意識改革」「ローカル・ルール」「廿日市市は一つの家族！」の 6 つ。

どのグループからも出るだろうと思うキーワードから説明する。まずは「安心・安全」次に「健康」。どの地域でも高齢化が進む中、若い人に頼るばかりではなく、高齢者同士でどれだけ扶助できるかを考えたとき、健康であるための施策が必要ではないかと考えた。「自然環境」は、景観に恵まれている廿日市市をごみのない自然豊かなまちにしたいと考えた。「意識改革」は、最近は隣の人がどんな人かもわからないことが多い、それぞれの地区、市全体を見回しても相談窓口がない、それぞれが仕方ないとあきらめてしまっては次に進まないという意見から、市民の意識を変えなければ何も変わらないと考えた。「ローカル・ルール」は、各地域それぞれの特色があり、一つのルールでは決まらないという話が出た。それぞれの地区に有効なルールが必要だと考えた。そうしたローカル・ルールもありつつ、「廿日市市は一つの家族！」のようなまちをめざしたい。何十年前に戻るよ

うかもしれないが、隣の子どもも叱る、出会ったらあいさつをするなど、小さなマナーから少しずつ意識改革をしながら、育っていけばよいと考えた。
　活動している中で感じていることについて「ボランティア活動は有償か無償か、評価は誰が何をもってするのか」や、宮島でゴミの問題や佐伯で花いっぱい運動に取り組んでいる成功事例から「みんなでともに考えることが必要」など、議論があった。

〔福祉グループ（B委員）〕
　廿日市市の現状をみると、若い人が少なく高齢者が多い。交通手段であるバス、商店がなくなり、働く場所が少なくなることにより若い人が少なくなり、高齢者にとっても住みづらいまちとなっている。
　修大在学中である自分から見ると、広島市在住の友人を招いて廿日市市で一緒に遊べる場所が思い浮かばず、近くてもアルパークまで出かけざるをえない。個人的意見でもあるが、あのような大きなショッピングモールがあったらいいなと思う。
　地域間交流が少なく、近所にどんな人が住んでいるかも分からない。また、情報が市から伝わってこない。
　こうした現状をふまえ、これからのはつかいちをどんなまちにしたいかというと、「年齢、性別に関係なく誰もが住みよいまち」「隅々まで情報が伝わり、情報が共有化されたまち」「賑わいのあるまち」「気持ちよくあいさつできる、安心・安全のまち」「自分たちのことは自分たちでやろうとするまち」であると考えた。これらが実現できたら、他の市町に自慢できる、廿日市市に来たいと思われるような「住みよいまち」となると思う。

〔文化・交流グループ（C委員）〕
　日頃活動している中で感じている現状として、「目先のことにとらわれて将来の人づくりについての具体的な行動が見えてこない」「若い人が集団生活に慣れていない」「20 代 30 代の参加が少ない」などが挙げられた。
　そこで、提案として、6 点。「文化・芸術を通して互いに理解し、ポジティブに関わり、人との接し方を学ぶ場に」していけるのではないか、例えば綱引き大会などをしてはどうか。「地域の独自性を大切にし、自分の住む場所のよさを知った上で、他のよさも認める『共和国制』『新・井の中の蛙主義』」。「地域文化を横断型で広げていく」例えば各地の祭りカレンダーづくり、市民センターの活動内容の情報共有、人材を知る機会づくり、宮島踊りを全国的に知らしめる。外国人との共生の視点では、盆踊りに招待したり、外国人の発表の場を設けたりする。古い民家を残して大切にし、家族構成の変化による住み替えのコーディネートを市ができないか。活動拠点については、使用にあたって不便な面があるので改善してほしいなど、話があった。
　これからのはつかいちをどんなまちにしたいかは、「声をかけ合えるまち」「助け合うまち」「笑顔のあふれるまち」「気持ちにゆとりの感じられるまち」。文化・交流ならではかと思うが「歌声の響くまち」「音楽の盛んなまち」「身近にいつもさまざまな文化芸術に触れられるまち」が挙がった。これらをあわせてグループでは「暖和のまち（暖かい和みのあるまち）」というキーワードを考えた。

〔青少年グループ（D委員）〕
　日頃、活動している中で感じていることは、生涯学習においては、地域と市民センターが連携を密にし、行事を実施するとよいという意見や、他の団体とコミュニケーションを図ることができず、同じような活動をしてしまうという意見があった。地域との連携による学校づくりにおいては、地域が学校に呼びかけてもなかなか応じてもらえない、校長の了解がないと教員も動けないという意見があった。グループ内で話をしたところ、地域と学校との壁を感じている人が多かった。学校から積極的に情報が発信され、地域と学校が一緒になって行事ができることが理想。子育て支援について、昔は子ども達が悪いことを

したら、地域の大人が叱っていたが、今は他人の子どもを叱ることができない。地域ぐるみで子育てを支援しないといけない。しかし、なかなか難しい。などが、挙げられた。

では、どのようにしたらはつかいちがよいまちになるかについては、「行政と市民が近い存在でまちづくりを行う」「いろんな人が集い、話し合える場を積極的に設けていく」「地域同士のコミュニケーションを密にする」などが挙がった。「青少年にとって、住みやすいまち・魅力あるまち」「山から海までの各地域の特色を生かせるまち」「楽しみのあるまち」「学校は、積極的に地域行事に参加する。教職員、地域、保護者、子どもが連携を図りながら、開かれた学校づくりを進める」「地域では、どこの子かがわかるような、子どもの姿が見えるまち」「若い力を活用することができる、若者が活躍できるまち」をつくることだと意見が出た。

これらから、「プラットホーム」を中心に、行政、学校、地域、コミュニティ、保護者、子どもたちが集まれるような、まちづくりをしていこうと、意見がまとまった。

「プラットホーム」をつくろうにも連携できていないと難しい。こういう場でいろんな人がどんなことでも意見を言い合える関係を築き、より活性化させ、はつかいちを元気にすること、地域を元気にすること、特色を生かすこと、若者が活躍できる場をつくること。をこれからの目標にしたいと思う。

〔安全・安心グループ（Ｅ委員）〕

安心安全チームは、キーワードが多い中で自主防災、消防団、防災対策施設、通学路の安全対策、登下校の見守りなどについて多くの意見が出た。自主防災では「３０代、４０代の人を呼び込んで活動を活発にしていきたい」「防災訓練の中で備蓄食品を上手に活用したい」という意見が出た。消防団員に関しては「日中いないことが多く、消防団 OB のかたなどで準団員を決め訓練などしておいてはどうか」子どもの見守りは「NPO 法人の活動も考えられる」「通学路など子ども目線で点検をする」ことが必要。登下校見守りは「メンバーが固定しているので、負担がかからないように」という意見があり、「順送り」「お互い様」ということが必要である。

これからのはつかいちをどんなまちしたいと思うかを、安心・安全のテーマで話し合っているうちに、コミュニティは地域によってあり方やつながりがそれぞれ違っており、ここからどうやって共通点を出すか大切であるということに気づいた。

「文化の薫りのあるまち」「年寄りが安心して住める」「情報を共有してコミュニケーションをとりたい」「コミュニティ同士のつながりが大切」「コミュニティ同士の情報を共有する場があるとよいのではないか」など意見があった。

お年寄りが増える、ひとり暮らしの人が増える地域において安心・安全を考える中で、「絆」までは重たすぎるが、「つながり」が大切であると考えた。「向こう三軒両隣」というように声かけが大切と思うが、個人情報の扱いで壁があり隣近所が見えない。結果として、いろいろな意味で「つながり」をまちづくりのめざす姿とした。

キャッチフレーズは、

㋐　常日ごろ
㋑　何でもみんなで話し合い
㋒　がんばりすぎないで、気楽に
㋓　まちづく㋓　　とした。

(4)　まとめ

〔総合ファシリテーター〕

短い時間で問いも抽象的だったが、活動している皆さんのふだんの活動からの思いを引っ張り出してみようというのが、事務局のねらいであったと思う。キーワードやこれといった部分を切り取った発表がされた。1 回目としては素晴らしい船出ができたのではないか

と感じる。
　少し、おさらいをする。
　環境では、これから大変なことが多いのでまちづくり条例を考えるタイミングで意識を変えていこうということ、これはとても難しいが一番重要であるという話であった。ローカル・ルールはあるが、一つの家族になろうと。こういうまちづくりのスローガンは、大切にしたい言葉だと思った。また、ボランティアは汗をかくが、なかなか収入にならないことも多いと思う。そのときにきちんとやっている人を評価する仕組みがルール化されるとよいなど、たくましいな、よい提案が出ているなと聞いた。
　福祉では、福祉を支えていくものはいろいろあったが「コミュニティ力」という言葉が楽しい言葉だと思った。
　文化・交流では「共和国制」「新・井の中の蛙主義」など、旧市町村のそれぞれのよいところを大切に伝えながら一つのまちづくりの取り組みとなっていくということであった。これも重要だと思った。和ませるために、芸術や音楽など子どもでも大人でも誰でもわかる、言葉や理屈ではない、こういう文化・交流を通して輪を広げていこうというのも素晴らしいと思った。
　青少年では、まちをよくしていくために意識改革の次に大切なのは、教育や子どもをどう育てていくかであり、行政・学校・地域で情報交換して力を一つにそろえていこうというプラットフォームという場づくりの話が出ていた。これをどうしていくのかも、条例づくりにおいて大事なキーワードが出たと思う。
　安心・安全では、一番大事にしたいことはつながりであるとあった。公助にはあまり期待できない中では、自助とか共助といった小さな単位でのつながりが大切である。
　つながりという言葉は、今日のポイントである。出てきた話、キーワードはほとんどがつながっており、これからまとめがいがあると感じた。

５　講評

〔事務局〕
　以上で、本日予定していた内容検討は、終了する。
　ここで、本日の会全体を見ていただいた蛯江先生から、廿日市市のまちづくりと条例策定に向けたアドバイスをお願いする。

〔アドバイザー〕
　今日と次回は、協働のまちづくりでめざす姿を描いていこうというのがテーマである。めざす姿については、実践している皆さんからたくさん言葉が出て、ほぼ固まった、確認ができたのではないかと思いながら見ていた。
　あるべき姿を考えるときの切り口は？と考えてみたが、あるものを生かしてどんな姿が描けるか、足らざるものどう補ったらどんな価値ができていくか、地域性はとても強いわけで個々の地域のあるべき姿はどうか、またその個々の姿を積み重ねてトータルとして廿日市はどんなまちをイメージするのかという、4つの切り口があるのかなと思う。
　まちづくり基本条例をどうまとめていくかであるが、願わくば、できるだけ個性のある廿日市条例をつくってもらうとよいと思う。まちの名前だけ変えたらできたというような全国共通のイメージではなく、個性あふるる廿日市の条例をめざしてほしい。
　そういう意味では、地域のイメージを積み重ねることがとても大事だと思う。せっかく今日吉和に来た。ここで会を開く意義は何だろうと考えた。吉和というベース、吉和を見て感じ取ったもの、描いたものを出し合い、吉和ってこんな可能性があるじゃないかなどたくさんある素材を出し合い、吉和はこんなまちがつくれると感じたところをみんなが投げ出してみることが大事だと思う。次に行く宮島でもそういう風にして、それをベースにし、土台にして、廿日市市全体としてどんなまちづくりをめざせるか、そんな切り口で考

えてみるとまたよいのかなと思いながら、話を聞かせてもらった。
　最近吉和にとてもご縁があり、来ることが多いが、本当に可能性の豊かな、本当に素材のたくさんある地域で、ここに来るとわくわくする。それぞれの地域にはわくわくするものがいっぱいあると思うので、それをまずみんなで素材にして、個性あふるる廿日市のまちのイメージをつくり、まちづくり基本条例につなげていただけるとありがたいと思う。

６　閉会

〔事務局〕
　次回、第3回会議は、8月9日月曜日、午後7時から、廿日市市役所7階会議室で開催する。テーマは、「廿日市市のまちづくり」とし、今回の内容を議論し、共通理解を図るという深堀りの作業を予定している。
　また、第4回会議は、9月4日土曜日、午後1時から、宮島福祉センターで開催する。今回と同様に、午前中、自由参加で、地域の様子を見学できればと計画している。
　第5回の10月については、12日火曜日と18日月曜日の希望が同数となっている。事務局としては、18日で予定させていただきたいが、いかがだろうか。
　了承していただいたので、18日とする。
　以上で、本日の会議を終了する。